

あなたにとっての「たからもの」は何ですか？

10月8日「陶板名画の日」記念イベント「あなたの思い、陶板で永久に残します」
永久に残したい絵画や写真 全国より募集！ テーマは『私達のたからもの』

～かけがえのない絵画や写真を特殊技術で陶板化～

応募締切 / 7月8日(金) 当日必着

世界初の陶板名画美術館「大塚国際美術館」(徳島県鳴門市)は、10月8日「陶板名画の日」に向けて、かけがえのない絵画や写真を永久に残す記念イベント「あなたの思い、陶板で永久に残します」を実施いたします。第7回目を迎えた今年、東日本大震災が大きな被害をもたらし、日本はいまだ多くの課題を抱えています。こうした状況の中、今年の募集テーマを『私達のたからもの』といたしました。家族や友だちとの大切な思い出、美しい自然や町並み、長い歴史のある文化・伝統行事など、陶板で残したい、皆に元気や希望を与えるかけがえのない絵画や写真を全国より募集します。

ご希望の方は、絵画や写真の種類、サイズと「たからものにまつわるエピソード」を明記の上ご応募ください。なお、陶板技術を使えば、絵画や写真が色褪せることなく2千年以上残すことが可能になります。

「モナ・リザ」「最後の晩餐」「ゲルニカ」…世界の名画を、そのままの姿で永久に残すことができれば…陶板化技術と「陶板名画」は、このような切なる願いから生まれたものです。

「大塚国際美術館」は、そんな願いを具現化するために誕生した世界初の陶板名画美術館で、日本最大級の常設展示スペースを誇る館内には現在、世界の名画1000余点が、原寸大かつ寸分違わぬ姿で陶板に再現され、一堂に展示されています。

そんな中、2005年、10月8日が「陶板名画の日」として認定されました。そこで「大塚国際美術館」では、個人の製作した絵画や写真を大塚オーミ陶業株式会社の特殊技術で陶板化し提供する、「あなたの思い、陶板で永久に残します」を実施し、第6回目となった昨年は、5名の方々の“思い”を実現することができました。

原爆投下で被爆した父が鎮魂のため描き続けた仏の絵(60代女性) かつて吉野川に架かっていた「こんにやく橋」の写真(60代男性) 築283年木造かや葺き家を描いた油絵(70代男性) 「マリア十五玄義図」の写真(60代男性) ドイツ人俘虜伯爵家の月報(60代女性) など、昨年の陶板化応募にはいずれも、かけがえのない思いが込められています。そして数多くの感動の声とともに、記念イベント継続の要望が寄せられました。

そこで今年も、かけがえのない絵画や写真を永久に残したいと願う人々3名様を叶えます。
これを機会に、あなたの熱い思いを実現してください。

多くの皆様のご応募をお待ちしております。概要は、以下のとおりです。

募集概要

名称 10月8日「陶板名画の日」記念イベント「あなたの想い、陶板で永久に残します」

内容 「陶板名画」の意義を広めることを目的に、「陶板名画の日」10月8日に限り、名画の永久保存を目的に使用されてきた陶板技術で、個人の製作した絵画や写真を陶板化します。

募集テーマ 『私達のたからもの』

陶板化数 3作品

1作品あたりの陶板化制作費用は30～50万円。当イベントの主旨に最も添う方に無償で制作いたします。
(制作する陶板寸法はA4判相当)

応募方法 官製ハガキ・FAX・メールのいずれかにて、以下の項目を明記の上、お申し込みください。

〒住所、氏名、年齢、電話番号

陶板化したい絵画や写真の種類、サイズ、これまでの保存年数

「私達のたからもの」にまつわるエピソード

ご応募いただいた個人情報は、当選者へのご連絡のためのみ使用させていただきます。

当選された方のみご連絡させていただきます。

アマチュアに限ります。

応募先 **【官製ハガキの場合】**

〒772-0053 徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦字福池 65 - 1

大塚国際美術館「陶板名画の日」係

【FAX・メールの場合】

以下ホームページの中に申込フォームがあります。所定欄に必要事項を記入ください。

URL <http://www.o-museum.or.jp/>

応募締切 2011年7月8日(金) 必着

書類審査の上、陶板化の条件を満たした3名様に内定した旨をご連絡します。

下記日程の陶板披露セレモニーにご参加いただくことを、当選の条件といたします。

セレモニー 2011年10月8日(土)「陶板名画の日」14時

「陶板名画の日」10月8日(とうばん)

2005年7月、日本記念日協会により、10月8日が「陶板名画の日」に正式認定されました。大塚国際美術館を中心に、世界各国の美術館や美術界の専門家が推進する「世界の名画を永久に残す」という世界初の文化プロジェクトに対する理解を促し、「陶板名画」の意義を広く啓発することが記念日制定の目的です。

参考：2010年度 第6回「あなたの想い、永久に残します」実施結果

募集時期 2010年7月～9月

応募総数 全国より40名（応募要件を満たした数）

陶板化数 5名様（陶板化の諸条件を満たした方）

以下に概要と、本人の応募コメントをそのままの言葉で抜粋します。

原爆投下で被爆した父が鎮魂のため描き続けた仏の絵

（大阪府 / 女性 / 62歳）

1945年8月6日 広島で原爆投下時に私の父は被爆。その折、母親と幼い子供4人は一瞬にして灰と化し、奇跡的に一命を取り止めたのは父のみ。父の鎮魂の日々は長く、仏を描く事により心の安らぎを恵たようです。今父は仏の“うてな”に帰りました。後の世に平和が続く事、でも悲しい思いをした先人達が居た事、私達に繋がる人々の為に心安らぐこの作品をいつまでも残して語り継ぎたいという祈りと願いを込め、応募いたしました。

築283年 木造かや葺き家を描いた油絵

（大阪府 / 男性 / 77歳）

私の家は今年で築283年。木造かや葺き、二棟。600坪の屋敷内に樹齢360年の老松。名付けて屋敷を「松樹館」と言います。先祖からの家屋敷を自分のわずかな財で維持管理して来ましたが、今後管理に苦慮している毎日です。5年前に油絵で残そうと描きました。陶板にて子孫にいつまでも残したく応募しました。

かつて吉野川に架かっていた「こんにやく橋」の写真

（徳島県 / 男性 / 62歳）

私は昭和61年11月より写真を始めました。その時に見つけたのが「こんにやく橋」です。この橋が大変気に入り、以来橋がなくなる日まで21年間色々工夫をして写真を撮りました。撤去されて4年目に入っておりますが、このようなユニークで面白い橋が徳島にあった事を永久に残してほしいです。

「マリア十五玄義図」の写真

（大阪府 / 男性 / 64歳）

昭和6年 祖父が家のかや葺き屋根の修復中、屋根裏から竹筒に入って発見した、マリア十五玄義図。京都大学に寄贈しています。京都大学では、平成18年に修復して、一般公開されました。写真では色褪せてくると思いますので、陶板で残してほしいと思います。

ドイツ人俘虜伯爵家の月報

（徳島県 / 女性 / 65歳）

ドイツ人俘虜の研究を続けていたところ、偶然、インターネットで「らしき名前」に行き当たり、連絡を取ったところ、大ヒットで、俘虜伯爵のお孫さんに当たる方でした。当方からは、当時の新聞記事を英訳してお送りしました。それに応じて、いろいろな写真や資料等をお送りいただきました。それに関する記事が載っているものです。記念に残しておきたいと思って応募いたしました。

大塚国際美術館とは

渦潮を臨み緑豊かな鳴門公園に位置する「大塚国際美術館」。古代壁画から世界 25 ヶ国 190 余の美術館が所蔵する現代絵画まで、1,000 点を超える世界の名画を特殊技術によって、原寸大の陶板で忠実に複製しています。約 4 km に及ぶ鑑賞ルートには、古代遺跡や礼拝堂を現地の空間そのままに再現した立体展示のほか、レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晚餐」、ゴッホ「ヒマワリ」、ピカソ「ゲルニカ」など、美術書などで一度は見たことがあるような名画を美術史の流れに沿って展示しています。なかでも、ミケランジェロが描いた天井画と正面祭壇壁画「最後の審判」とともに立体再現した「システイーナ・ホール」の迫力は必見です。

大塚国際美術館

住所：徳島県鳴門市鳴門町 鳴門公園内

TEL：088-687-3737

FAX：088-687-1117

<http://www.o-museum.or.jp/>

開館時間：9 時 30 分から 17 時（入館は 16 時まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

正月明けに連続休館あり / 7・8 月無休

入館料：小・中・高生 520 円

大 学 生 2,100 円

一 般 3,150 円

* 20 名以上の団体は 10% 割引

アクセス

- ・鳴門北 IC から車で約 3 分
専用駐車場より無料シャトルバス運行
- ・高速バスにて（高速鳴門まで）
JR 大阪駅より約 2 時間 10 分 / JR 新神戸より約 1 時間 35 分
- ・路線バス「鳴門公園行」にて「大塚国際美術館前」下車
JR 徳島駅より約 55 分、JR 鳴門駅より約 15 分、
「高速鳴門バス停前」「小鳴門橋」バス停より約 15 分、
「徳島空港」バス停より約 30 分



環境展示：「システイーナ・ホール」

《本件に関するお問い合わせ先》

大塚国際美術館 企画・広報部 坂本明子

TEL：088-687-3737 FAX：088-687-1117

e-mail：museum@otsukakj.co.jp